

令和5年度

教職課程

自己点検評価報告書

田園調布学園大学

令和6年3月

田園調布学園大学 教職課程認定学部・学科、大学院・専攻・免許状一覧

- ・ 人間福祉学部共生社会学科／心理福祉学科
 - 中学校教諭一種免許状（社会）
 - 高等学校教諭一種免許状（公民）・（福祉）
 - 特別支援学校教諭一種免許状（知的障害者・肢体不自由者）
- ・ 子ども未来学部子ども未来学科
 - 幼稚園教諭一種免許状
- ・ 大学院人間学研究科子ども人間学専攻
 - 幼稚園教諭専修免許状

教職課程自己点検評価のための基礎資料

- ・ 「大学機関別認証評価 自己点検評価書（日本高等教育評価機構・令和元年度）」
- ・ 「令和2年度自己点検評価書」
- ・ 「令和3年度自己点検評価書」
- ・ 「令和4年度自己点検評価書」
- ・ 「2023年度 履修要項」（人間福祉学部、子ども未来学部）
- ・ 学部シラバス（オンライン教務システムより検索・ダウンロード）
- ・ 「2023年度 履修要項・シラバス」（人間学研究科）
- ・ 「2023年度 大学案内」
- ・ 「2023年度 大学院案内」
- ・ 大学ホームページ
 - 「情報公開」 <https://www.dcu.ac.jp/overview/information/index.html>
 - 「教職課程」 <https://www.dcu.ac.jp/career/teacher/index.html>
 - 「実習教育」 <https://www.dcu.ac.jp/school/practice/index.html>
- ・ 大学教授会議事録、大学院教授会議事録、共生社会学科会議録、子ども未来学科会議録
- ・ 「教職課程年報」（第1号～第7号、2017年～2023年）
- ・ 「教職課程履修ファイル」（本学における履修カルテ）
- ・ 「教職課程履修ファイル（教員用）コメントシート」
- ・ 「教育実習の手引き」（人間福祉学部、子ども未来学部）
- ・ 教職課程委員会会議事録
- ・ 学校法人調布学園 田園調布学園大学と川崎市麻生区との連携・協力に関する協定書」
- ・ 神奈川県教育委員会と田園調布学園大学との連携と協力に関する協定書

大学としての全体評価と教職課程の自己点検評価について

田園調布学園大学は、建学の精神である「捨我精進」を基本にして教育・研究・地域貢献の向上に資することを目指し教員養成を行ってきました。本学は、令和元年10月に公益財団法人日本高等教育評価機構による第3回目の認証評価の現地調査を受け、その結果、令和2年3月11日に、同機構の定めるすべての基準（1：使命・目的 2：学生 3：教育課程 4：教員・職員 5：経営・管理と財務 6：内部質保証）を満たしていると評価され、「適合」の判定を受けております。

教職課程の自己点検評価については教職課程委員会を中心に情報収集を行い、本学の全学的組織である自己点検・評価委員会の助言を受けながら学部、大学院研究科において実施してまいりました。

「教育職員免許法施行規則等の一部を改正する省令（令和3年文部科学省令第25号）」の公布・施行によって、教職課程の自己点検・評価の実施とその結果の公表が義務化されたことを受け、本学の教職課程教育の現状、長所・特色とともに取り組み上の課題を抽出し、令和5年3月に「令和4年度教職課程自己点検評価報告書」（田園調布学園大学）を公表しました。

令和5年度においては、前年度に抽出された「取り組み上の課題」に対する改善の方向性や成果を中心に、教職課程の自己点検評価を実施しました。報告書作成にあたっては一般社団法人・全国私立大学教職課程協会作成の「教職課程自己点検評価報告書」作成の手引き・令和5年度版（令和5年7月）を参考にしました。

本報告書をご覧の上お気づきの点やご意見などをお寄せいただきたく、お願い申し上げます。

田園調布学園大学

学長 生田久美子

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	3
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	3
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	8
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	14
III	総合評価	20
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	21
V	現況基礎データ一覧	23

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

- (1) 大学名：田園調布学園大学
- (2) 学部名：人間福祉学部 子ども未来学部 大学院人間学研究科
- (3) 所在地：神奈川県川崎市麻生区東百合丘 3 - 4 - 1
- (4) 学生数及び教員数

(令和 5 年 5 月 1 日現在)

学部	教職課程履修者数	在籍学生数
人間福祉学部	39 名	670 名
子ども未来学部	290 名	300 名
大学院人間学研究科	4 名	25 名

人間福祉学部	教職課程科目担当 (教職・教科とも)	学部専任教員数
中一種免 (社会)	6 名	31 名
高一種免 (公民)	6 名	
高一種免 (福祉)	6 名	
特支一種免 (知・肢)	3 名	
子ども未来学部	教職課程科目担当 (教職・教科とも)	学部専任教員数
幼一種免	9 名	18 名
大学院人間学研究科	教職課程科目担当 (教職・教科とも)	研究科専任教員数
幼専免	3 名	6 名

2 特色

本学の教員養成に対する理念は、建学の精神「捨我精進（しゃがしょうじん）」に基づいて、社会福祉の精神・知識・技術を基盤として、幼児教育や学校教育の現場で貢献できる人材を育成することである。

田園調布学園大学の建学の精神である「捨我精進」とは、自己本位の考えをできるだけ捨て、社会のために積極的に尽くし、精魂傾けて努力することを意味している。本学は、この建学の精神に基づく人間尊重を大切にし、時代の要請に対応できる柔軟な思考力と行動力があり、人間性豊かで、地域社会や国際社会の福祉に貢献できる教員を育成することを目標としている。

教員養成においては、この建学の精神をわかりやすく伝えるために、「考えよう。自分のために何ができるかではなく、他人（ひと）のために何ができるかを。」をスローガンとして学生指導をおこなっている。

具体的には、以下の 4 つの観点をめぐって、理論と実践の往還（おうかん：往復）を図りながら省察（せいさつ：深い反省と考察）を繰り返し、学生が自ら成長していくことを重視している。

- ① 教育に対する情熱と熱意
- ② 他と連携する協調性
- ③ 子どもが求めていることへの理解
- ④ 子どもの主体性を伸ばす指導力

子どもから高齢者までのすべてのライフ・ステージに対応する福祉を支える人材を養成する福祉教育を推進していることが、本学の教育の特性である。この趣旨を踏まえ、人間福祉学部には福祉領域の専門性を生かした「特別支援」、「福祉科」、福祉領域と深くかかわる「社会・公民科」の教職課程を設置している。また、教育・保育を支える人材を養成するため、子ども未来学部、大学院人間学研究科に、幼稚園教諭の教職課程を設置している。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状説明〕

本学の各教職課程教育の目的・目標は次の通りである。

人間福祉学部共生社会学科／心理福祉学科

建学の精神に基づき、人の一生を通じた多様な福祉ニーズに対応するために、心理と福祉の専門的知識を活用して、教育現場や福祉現場において貢献できる教員を養成することを目的とする。

子ども未来学部子ども未来学科

建学の精神に基づき、家庭や地域社会、他領域の専門家、行政と連携、協力して「子どもの最善の利益」を守り、子どもと社会の未来について深く思考しながら行動できる専門性の高い教員の養成を目的とする。

大学院人間学研究科子ども人間学専攻

「子どもを人間としてみる」という新しい保育観に立つ「子ども人間学」を基礎にして、人間学的学識に基づく質の高い実践家（省察的実践家）としての教員の養成を目指す。

以上のような教員養成の目的・目標および育成を目指す教師像を、学部、研究科のディプロマポリシー（DP）、カリキュラムポリシー（CP）と関連させて定め学生に周知している。

〔優れた取組〕

学部においては卒業認定・学位授与の方針を踏まえて育もうとする学修成果（ラーニングアウトカム）を、本学独自の「DCU 学士力」として可視化し、学修支援ツールとして運用している。教職課程においてもすべての科目で DCU 学士力によ

る位置づけを行いシラバスに明記し、教職課程教育の目標・目的を教職員・学生が共有している。

研究科においては「田園調布学園大学学術図書出版助成事業」によって、専任教員等が共著『「子ども人間学」という思想と実践』を公刊し、育成をめざす教師像について学内外に共通理解を広める協働的な取り組みを行っている。

〔改善の方向性・課題〕

令和 5 年 4 月に人間福祉学部心理福祉学科は「共生社会学科」への名称変更を行った。名称変更に対応した教職課程教育の目的・目標の確認、共有を行うために学科会で共通理解を図ったうえで、令和 5 年度は教職課程ガイダンスを 2 年生に 5 回、3 年生に 3 回実施し延べ人数で 89 名が参加した。

子ども未来学部子ども未来学科は令和 4 年度において入学定員が未充足であった。これを受けて令和 5 年度には定員を 80 名に削減したが充足できなかった。そのため学部学科のカリキュラムを見直し、令和 7 年度から子ども教育学部教育学科を設置することを構想し、文部科学省に事前相談を行って承認を受けた。また、令和 7 年度より小学校一種免許を取得できるよう教職課程認定申請を行った。幼稚園・小学校の教職教育の目的・意義について、教職員・在学生のみならず社会全般において十分な理解が深まるよう今後も研究・社会貢献・地域活動を行っていく必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

「2023 履修要項」

- ・人間福祉学部共生社会学科カリキュラムマップ、カリキュラムツリー
- ・子ども未来学部子ども未来学科カリキュラムマップ、カリキュラムツリー

学部シラバス（DCU 学士力、アクティブ・ラーニング項目）

「2023 年度シラバス執筆の手引き」

教務委員会「シラバス執筆について（お願い）」

教職課程委員会・教務委員会「教職課程科目のシラバス執筆について（お願い）」

「非常勤講師連絡会・資料」

「非常勤講師連絡会・分科会記録」（子ども未来学部）

『「子ども人間学」という思想と実践』（生田久美子・安村清美編、北樹出版、2020年）

「田園調布学園大学子ども教育学部子ども教育学科」設置届・事前相談書類

「田園調布学園大学の教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程認定申請書」（小学校一種免許課程）

「設置構想についての高校生アンケート調査（田園調布学園大学子ども教育学部子ども教育学科（仮称）」

基準項目 1 - 2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

本学は教職課程に関する全学的な組織として、2010年4月に教職課程委員会を設置した。委員の構成は、令和5年度においては2学部2学科と研究科の教職課程専任教員4名と教学支援課職員3名である。

教職員組織については、教職課程認定基準に適合する専任教員として、研究者教員と実務家教員を配置し、教科教育法の担当教員に実務家教員を配置している。実務家教員が担当する科目について学部シラバスにおいて「科目に関する実務経験」項目を設け具体的な内容を記載している。

組織的情報共有のために、教職課程委員会における審議・報告内容については委員・担当が学科、研究科に伝達している。教授会、学科会議録はオンラインで、大学院教授会、教職課程委員会を含む各委員会議事録は総務・経理課にて閲覧可能である。

FDについては教職課程を含むすべての授業について授業評価アンケートを実施し、その結果を学生、教職員に公開している。年間3回開催されるFD・SD研修に教職課程専任教員は全員参加しレポートを提出している。

教育職員免許法施行規則第 22 条 6 に定められた教職課程に関連する基本事項はすべて大学 HP で公開し毎年更新している。

本報告書作成プロセスに示すように、令和 5 年度の教職課程委員会の事業計画に教職課程自己点検評価を行うことを記載し、学内関係組織と協力し本報告書を作成した。

〔優れた取組〕

本学は全国私立大学教職課程協会、関東私立大学教職課程協議会、神奈川・山梨地区私立大学教職課程研究連絡協議会に加盟しており、教職課程委員が大会、研修会に分担し参加している。職員は大学教務実践研究会、京都地区私立大学教職課程研究連絡協議会・教員免許事務勉強会にも出席し、その内容については会議で共有している。

教職員の共通理解に基づく協働的な取り組みとして、「法人各校教職員情報交換会」を実施している。同一法人内の各校（田園調布学園中等部・高等部、調布幼稚園、田園調布学園大学・大学院、田園調布学園大学みらいこども園）の教職員が相互に「日常的な保育・教育活動の見学」を行う。①ありのままの教育活動を参観・見学し、園児・生徒・学生の姿を通して各校についての理解を深めるとともに、自己と自校を振り返り一層の向上を図り、②情報交換により教職員間の継続的な関係構築につなげることを目的とする。教職課程担当教職員にとっては各学校段階の教育現場における最新の活動と知見に触れる機会となっている。

〔改善の方向性・課題〕

教職課程教育のための図書・資料は十分に備えられているが、ICT 活用力・指導力の育成に必要な模擬授業教室の機器や備品の整備は今後の課題である。文部科学省においては GIGA スクール構想が進められており、小中学生においても 1 人 1 台の学習用端末が整備された。

本学の教職課程教育における ICT の指導と活用は現段階では十分に基準を満た

しているが、将来的には人的・組織的な基盤整備の拡充が必要となることが予想される。そのため、11月に教職課程委員長より「教職教育のICT化のための特別教室の整備」について学部長・学科長へ要望を提出したが整備は進んでいない。令和7年度には子ども教育学部が設置される予定であり、教職課程委員会が中心になってICT機器整備の推進をはかる必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

FD・SD 授業評価アンケート、授業アンケートの振り返り

FD・SD 委員会授業公開参観者集計票、授業公開による研修報告書シート、授業公開コメント・フィードバックシート

FD・SD 研修会動画

大学院授業アンケート、大学院「学生による授業アンケート」結果を受けて（報告書）

「法人各校教職員情報交換会」見学予定表、見学者アンケート

大学ホームページ

「情報公開」<https://www.dcu.ac.jp/overview/information/index.html>

「教職課程」<https://www.dcu.ac.jp/career/teacher/index.html>

「実習教育」<https://www.dcu.ac.jp/school/practice/index.html>

オンライン教務システム「でんでんばん」施設予約システム

学部シラバス「科目に関する実務経験」項目

「2023年度 教務関係ご案内」

施設・設備・備品台帳

図書館蔵書目録 <https://library.dcu.ac.jp/drupal/>

「教職教育のICT化のための特別教室の整備（要望）」

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状説明〕

各学部、研究科において入学に際して求められる基礎的な知識や専攻分野への関心、意欲、態度、求める学生像をアドミッション・ポリシー（AP）として定めている。AP は学生募集要項をはじめ、「高校生のための入試ガイド」、学部、研究科のホームページ、大学ポートレート等に掲載し、入学志願者及びその保護者並びに高校の進路指導担当者ほか社会への周知を図っている。

学部では教職課程教育がめざす学生像について、オープンキャンパス、高校ガイダンスなどでも直接、高校生・保護者に説明を行っている。卒業認定・学位授与の方針を踏まえて、学部の教職課程に即した適切な資質をもつ学生を受け入れている。また、大学ホームページの「教職課程」サイトにおいて下記の情報を公開している。

- ・ 本学の教員養成に対する理念と育てたい教員像
- ・ 人間福祉学部共生社会学科の教員養成に対する理念と育てたい教員像
- ・ 子ども未来学部子ども未来学科の教員養成に対する理念と育てたい教員像
- ・ 人間学研究科子ども人間学専攻の教員養成に対する理念と育てたい教員像

教職課程の履修を始めようとする学生には、教職ガイダンスを実施し、本学の教員養成の目標、教職課程の履修や教師に求められる心構え等の説明をしている。また、冊子「教育実習の手引き」において実習実施要件の説明を記載している。

学生が自分の履修状況を記録し振り返り、教職課程の学修目標を達成するためのポートフォリオ（履修カルテ）として「教職課程履修ファイル」を作成・運用している。ファイルには学科の教員養成の目標、教職課程の履修や教師に求められる心構え等の説明を記載している。また、履修開始・継続に求められる能力や心構えを学生が理解できるように自己チェックリストを設けている。

「教育の基礎に関わる科目」については、「教職課程履修ファイル（教員用）コ

メントシート」システムを運用している。その内容を 4 年次の「教職実践演習」（共生社会学科）、「保育・教職実践演習（幼稚園）」（子ども未来学科）で活用し適切なフィードバックを行っている。

〔優れた取組〕

令和 5 年 4 月に人間福祉学部心理福祉学科は「共生社会学科」への名称変更を行った。入試広報活動の充実をはかり、教職へのキャリアを高校生に積極的にアピールしていく必要があり、令和 5 年度は大学案内の内容を刷新した。オープンキャンパスや夏期福祉総合講座では高校生に向けて、高校説明会では教員に向けて、共生社会実現を担う教員養成の魅力をアピールした。

子ども未来学部子ども未来学科は、オープンキャンパスや高校ガイダンスでは、3つのコース制における幼稚園教諭養成のあり方についてアピールしてきた。DCU 祭では来場者に向けて学生が直接学びの成果を発表し、リアルな学生の姿を発信するように試みている。ホームページでは、幼児教育に関する取り組みについて 59 件の発信を行った。

大学院子ども人間学専攻においても新入生に教職ガイダンスを実施している。また、教育・保育に関するシンポジウムと大学院説明会を開催し、専修免許への上進可能性をもつ現職保育者に向けて情報提供を行っている。令和 5 年度は第 9 回大学院シンポジウム「0 歳から始まる学び—幼児教育から小・中学校へ」をハイブリッド開催し、講演者として川崎市新作小学校校長・栗田嘉也氏を招へいした。シンポジウムの成果は報告書としてまとめ、地域の幼稚園・認定こども園などに送付している。また、幼保小のパートナーシップを進め、多様な学生を受け入れることを目指し、令和 7 年度に小学校専修免許課程を開設する計画を立て課程認定申請を行った。

〔改善の方向性・課題〕

子ども未来学部子ども未来学科は令和 5 年度には定員を 80 名に削減したが充足

できなかった。このような動向を鑑みて、学部学科のカリキュラムを見直し、令和7年度から子ども教育学部教育学科を設置することを構想し、文部科学省に事前相談を行って承認を受けた。また、令和7年度より小学校一種免許を取得できるよう教職課程認定申請を行った。幼保小の接続期を重視する新たな学部における教職教育の目的・意義について十分な理解が深まるよう積極的に広報活動を行っていく必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

「学生募集要項」

「高校生のための入試ガイド」

「2023 履修要項」（「DCU 学士力」について）

- ・ DCU 学士力（基礎力）
- ・ DCU 学士力（専門性）共生社会学科
- ・ DCU 学士力（専門性）子ども未来学科

大学ホームページ

「情報公開」 <https://www.dcu.ac.jp/overview/information/index.html>

「教職課程」 <https://www.dcu.ac.jp/career/teacher/index.html>

「実習教育」 <https://www.dcu.ac.jp/school/practice/index.html>

「教育実習の手引き」

「教職課程履修ファイル」

「教職課程履修ファイル（教員用）コメントシート」「評価基準および評価コメント」

「共生社会学科教職課程履修ファイル用評価コメントシート対象科目」

「子ども未来学科教職課程履修ファイル用評価コメントシート対象科目」

教職ガイダンス資料

大学院シンポジウム報告書、ポスター（第1回～第9回、2015年～2023年度）

「田園調布学園大学の教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程認定申

請書」(小学校専修免許課程)

「設置構想についての高校生アンケート調査(田園調布学園大学子ども教育学部子ども教育学科(仮称))」

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

〔現状説明〕

学部では、教職課程設置学科の教育・支援体制に加えて、学生の教職へのキャリア支援のために、進路に関する相談、指導、助言のための事務組織である学生生活・進路支援課に進路担当の職員を 4 名配置している。あわせて各学科の教員と当該職員により構成される進路指導委員会が就職支援、学生個人データベースの作成、教職インターンシップの支援を行っている。

大学院子ども人間学専攻では研究指導担当教員を中心に就職や進学に対する相談・助言体制を整備している。社会人を受け入れ、現職教員が幼稚園教諭専修免許状を取得できるように、平日夜・土曜に授業を開講している。修了に際しては免許状の一括申請等の事務を教学支援課で行っている。

〔優れた取組〕

人間福祉学部共生社会学科においては教職課程履修学生の進路希望、教職志望理由等についてアンケート調査を行いその結果を集計・分析している。その結果を踏まえて、教職志望学生への支援をより充実させるために「特別支援教育コース」を設けている。教職課程専任教員が、教員採用試験を受験する学生に試験対策の指導を行っている。また教員となっている卒業生と教職課程履修学生が懇談する会を毎年実施している。令和 5 年度は採用試験に向けた対策講座を夏期 16 日、春期 13 日実施した。夏期は卒業生が延べ 12 名、春期は 4 年生延べ 15 名が指導補助等にたった。

特別支援学校教諭については神奈川県、横浜市、川崎市などから大学推薦枠の指定があり、毎年、応募・合格者を輩出しているが枠を使いきれていない年もあった。

しかし、令和 5 年度は、特別支援学校教諭の大学推薦について、神奈川県が推薦枠 4 名に対して、応募者 4 名、合格者 4 名、横浜市は推薦枠 1 名に対して、応募者 1 名、合格者 1 名、川崎市は推薦枠 2 名に対して、応募者 2 名、合格者 2 名であった。また、一般での受験者も多く、神奈川県で 2 名、北海道で 3 名、長崎県で 1 名が合格した。

子ども未来学部においては、同一学校法人が運営する「調布幼稚園」「田園調布学園大学みらいこども園」において教育実習、学外研修、ボランティア活動を実施している。教員として活躍している卒業生に来校してもらい幼稚園・認定こども園の現場の実践について学生と意見交換を行う会も開いている。

研究科の教職課程履修生ならびに在学時に教職課程を履修していた修了生に対しては、幼稚園教諭一種免許状授与の資格取得のために、子ども未来学科の教職課程を履修する場合、登録検定料の免除、履修料の二分の一の額を減免する制度を整えている。

〔改善の方向性・課題〕

子ども未来学部は幼稚園教諭免許と保育資格の同時取得を原則としていたが、令和元年度入学生より幼稚園教諭免許取得が選択制になり、取得を希望しない学生が微増している。このような学生の動向を鑑みて、学部学科のカリキュラムを見直し、令和 7 年度から子ども教育学部教育学科を設置することを構想し、文部科学省に事前相談を行って承認を受けた。また、令和 7 年度より小学校一種免許を取得できるよう教職課程認定申請を行った。

<根拠となる資料・データ等>

教育実習配属一覧

大学推薦枠学内選考公募書類、選考結果報告書

教員採用候補選考試験における大学推薦に係る学内公募出願理由書

採用試験対策講座企画書・稟議書

教育実習報告会資料・報告書

実習体験報告会資料・報告書

教育職員免許状一括申請説明会（前編）（後編）資料

進路指導委員会議事録、学生進路先情報

実習委員会議事録、実習連絡会資料

「田園調布学園大学子ども教育学部子ども教育学科」設置届・事前相談書類一式

「田園調布学園大学の教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程認定申請書」（小学校一種免許課程）

「設置構想についての高校生アンケート調査（田園調布学園大学子ども教育学部子ども教育学科（仮称）」

大学広報誌『DCU PRESS』『With』

大学ホームページ>就職・資格>教職課程

<https://www.dcu.ac.jp/career/teacher/index.html>

- ・「教職トピックス～教員養成の質の向上への取り組み～」
- ・「横浜市教育委員会大学連携サイト」
- ・「横浜市教育委員会動画『先生になりたい』」

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

人間福祉学部共生社会学科、子ども未来学部子ども未来学科ともに、入学時点では全学生が教職課程を履修できるカリキュラム編成となっている。

各科目のシラバスについては、執筆依頼時に「教職課程コアカリキュラム」「教職課程コアカリキュラム対応表」「モデルカリキュラム」（幼稚園教諭の養成の在り方に関する調査研究）の参照を求め、「シラバス記載内容・教職課程委員会の確認項目」「シラバス執筆チェックリスト（教職課程委員会）」を提示している。前年度のシラバスから変更があった場合、執筆者から提出された「変更箇所のチェック欄」と「確認事項のチェック欄」を教職課程委員会が確認、場合によっては修正を求め適切な教職課程カリキュラムの実施を担保している。

大学全体としてアクティブ・ラーニングを奨励し、シラバス作成時に教務委員会から依頼を行っている。また、教職科目だけでなく、すべての科目のシラバスで学習内容、評価方法を明示している。

研究科では、専修免許取得希望者のために複数の教職科目が時間割の同じ枠に配置されないよう工夫している。

〔優れた取組〕

「教育職員免許法施行規則等の一部を改正する省令（令和3年文部科学省令第35号）」によって、①情報通信技術を活用した教育の理論及び方法に関する事項の新設と、②教職実践演習におけるICTの活用が義務づけられた。人間福祉学部共生社会学科においては「各教科の指導法」「教職実践演習」「教育の方法及び技術（情報通信技術の活用含む）」において、ICTの指導と活用が含まれるよう前後期の最初の学科会で周知・確認している。子ども未来学科においては「保育内容の指導法」「保育・教職実践演習（幼稚園）」「教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）」において、ICTの指導と活用が含まれるよう学科にて綿密にシラバスチ

ェックを実施している。

教育実習については必要な履修要件、実習要件科目を設定して学びの順序性を担保している。4年次の「教職実践演習」（人間福祉学部）、「保育・教職実践演習（幼稚園）」（子ども未来学部）の指導のために、「教職課程履修ファイル」と「教職課程履修ファイル（教員用）コメントシート」を用いて、学生の学修状況に応じたきめ細かな教職指導を行っている。

〔改善の方向性・課題〕

令和5年4月に人間福祉学部心理福祉学科は「共生社会学科」への名称変更を行った。教職課程教育の編成を点検し、令和7年度に大幅なカリキュラム変更を行う予定である。キャップ制と学生への負担を考慮し、教職科目の必修と選択の見直しと新しい科目の検討を行っているところである。

子ども未来学部子ども未来学科は令和4年度において入学定員が未充足であった。これを受けて令和5年度には定員を80名に削減したが充足できなかった。高校生のニーズを把握し、カリキュラム改革によって学部学科の新たなブランディングを行うために近隣の高校にアンケート調査を実施した。結果を受けてカリキュラムを見直し、令和7年度から子ども教育学部教育学科を設置することを構想し、文部科学省に事前相談を行って承認を受けた。また、令和7年度より小学校一種免許を取得できるよう教職課程認定申請を行った。

<根拠となる資料・データ等>

「2023履修要項」

- ・人間福祉学部共生社会学科カリキュラムマップ、カリキュラムツリー
- ・子ども未来学部子ども未来学科カリキュラムマップ、カリキュラムツリー

「教育実習の手引き」

「教職課程履修ファイル」

「教職課程履修ファイル（教員用）コメントシート」「評価基準および評価コメント」

「共生社会学科教職課程履修ファイル用評価コメントシート対象科目」

「子ども未来学科教職課程履修ファイル用評価コメントシート対象科目」

学部シラバス（DCU 学士力、アクティブ・ラーニング項目）

教務委員会「シラバス執筆について（お願い）」

教職課程委員会・教務委員会「教職課程科目のシラバス執筆について（お願い）」

「2023 年度シラバス執筆の手引き」

シラバス記載内容・教職課程委員会の確認項目

シラバス執筆チェックリスト（教職課程委員会）

2023 年度大学院時間割表

施設・設備・備品台帳

「田園調布学園大学子ども教育学部子ども教育学科」設置届・事前相談書類

「田園調布学園大学の教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程認定申請書」（小学校一種免許課程）

「設置構想についての高校生アンケート調査（田園調布学園大学子ども教育学部子ども教育学科（仮称）」

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状説明〕

建学の精神「捨我精進」に基づき、地域連携活動及び産官学連携等を行う部署として地域交流センターを開設している。2016 年 11 月には神奈川県教育委員会と「連携と協力に関する協定」を締結した。神奈川県教育委員会は、本学の他、神奈川県内の高等教育機関及び企業と協定を結び、県立高校生学習活動コンソーシアム協議会を設置している。協議会のメンバーとして、本学は出前授業、公開授業、体験学習を提供し、教育委員会との組織的な連携協力体制の構築を図っている。

ほかに「田園調布学園大学・麻生区連携協議会」「聖マリアンナ医科大学・田園調布学園大学・宮前区連携協議会」「街づくり大学ネットワーク（愛称「しんゆり大学」）などの協定を結び、地域と連携した実践的指導力の育成をはかっている。

〔優れた取組〕

横浜市教育委員会と連携し、本学教職課程サイトと「横浜市教育委員会大学連携サイト」「横浜市教育委員会動画『先生になりたい』』とリンク共有している。令和5年度は、人間福祉学部共生社会学科では神奈川県と川崎市の職員による「教職ガイダンス」を各1回行った。学校現場の実情をよく知っている職員に、それぞれの自治体の特色や魅力を含めて、求めている教師像についての講話を依頼した。また、大学の近隣にある小学校や中学校と連携し特別支援学級で学習支援や生活支援のボランティア、部活動や宿泊行事などでの指導補助の体験機会を設けた。

子ども未来学部子ども未来学科では幼稚園教育実習協力校と教育実習の充実をはかるために、毎年の実習報告会と重ねて実習連絡会（2年に一度）を開催している。グループ討論も行いその結果をまとめて学科教員が共有し、教育実習の改善に役立てている。

本学は川崎市との連携によって同一法人が「田園調布学園大学みらいこども園」を運営しており、子ども未来学部の教育実習、学外研修、ボランティア活動を受け入れている。麻生区との連携事業としては「あそぼう！けろけろ田園チャイルド」「キッズアート田園『夢がふくらむ WAKUWAKU ランド』』を実施し、学生が地域の親子と直接交流する場を設けている。

令和4年度からは大学内の施設を使って地域の親子が集い子育てを楽しむ交流の場として子育て支援室「DCU 子どもひろば：みらい」を開室している。地域のなかで学生が実践的指導力を身に付ける機会を拡充している。

研究科では、神奈川県、東京都で質の高い教育を行う幼稚園・認定こども園の園長を非常勤講師として招へいし実践的指導力の育成をはかっている。園見学などの学外研修の機会も設け地域と連携した教員養成を行っている。

〔改善の方向性・課題〕

現在、学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して学校を運営する「チーム学校運営」への対応が求められている。多様な専門性を持つ人材と効果的に連携し、チームとして組織的に課題に対応できる実践的な指導力を育成するにあたって、本学は十分なリソースを有している。

人間福祉学部共生社会学科では中学校、高等学校、特別支援学校教員を養成し卒業生を輩出してきた。人間福祉学部社会福祉学科社会福祉専攻は、スクールソーシャルワーク教育課程を開設している。人間科学部心理学科では公認心理師、認定心理士の取得に必要な科目を配置し、社会教育士の養成も行っている。また、子ども未来学部子ども未来学科は幼稚園教諭養成に加えて、令和7年度から子ども教育学部子ども教育学科として小学校一種免許を取得できるよう教職課程認定申請を行ったところである。

本学では、以上のような各学校段階の教員、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、社会教育士の養成を各学科が独自に行ってきた。今後は、教育現場に関心をもつ多様な専門分野の学生・卒業生が、学科の枠を越えて交流できる教育活動やキャリア支援を行う体制づくりが重要である。

地域に開かれた施設としては、図書館、地域交流センター、子育て支援室「DCU 子どもひろば：みらい」に加え、令和6年度には大学院人間学研究科心理学専攻が運営する田園調布学園大学心理相談室も開設される。地域との連携拠点を有機的に活用し、本学の全学部、研究科が協力し、教職学生の実践的指導力の育成の場を充実させていくことが望まれる。

<根拠となる資料・データ等>

学校法人調布学園 田園調布学園大学と川崎市麻生区との連携・協力に関する協定書」

神奈川県教育委員会と田園調布学園大学との連携と協力に関する協定書

「麻生区・6大学 公学協働ネットワーク」に関する協定書

「あそぼう！けろけろ田園チャイルド 開催案内」

「キッズアート田園『夢がふくらむ WAKUWAKU ランド』」開催案内

「教育実習」「幼稚園教育実習Ⅰ」「幼稚園教育実習Ⅱ」実習先一覧

子ども未来学科実習連絡会（令和5年度）

大学ホームページ>就職・資格>教職課程

<https://www.dcu.ac.jp/career/teacher/index.html>

- ・「教職トピックス～教員養成の質の向上への取り組み～」
- ・「横浜市教育委員会大学連携サイト」
- ・「横浜市教育委員会動画『先生になりたい』」

「DCU 子どもひろば：みらい 開催案内」ポスター、記録動画

Ⅲ. 総合評価

人間福祉学部では人の一生を通じた多様な福祉ニーズに対応するために、共生社会学科において心理と福祉の専門的知識を活用して、教育現場や福祉現場において貢献できる教員を養成してきた。6つの基準項目において文部科学省のガイドラインの観点を満たしており、令和5年度の教員採用試験合格者数は、教職課程設置以降で最も多かった。

子ども未来学部では家庭や地域社会、他領域の専門家、行政と連携、協力して「子どもの最善の利益」を守り、子どもと社会の未来について深く思考しながら行動できる専門性の高い教員を養成してきた。6つの基準項目において文部科学省のガイドラインの観点を満たしているが、令和5年度も入学定員が未充足であった。令和7年度における子ども教育学部子ども教育学科の設置と小学校教員免許課程の開設に向けて、これまでの幼稚園教諭養成の実績を活かして、高校生のみならず社会全般に、教員養成の魅力が伝わるよう研究活動・社会活動を行っていく必要がある。

大学院人間学研究科では「子どもを人間としてみる」という新しい保育観に立つ「子ども人間学」を基礎にして、人間学的学識に基づく質の高い実践家（省察的実践家）としての教員の養成を行ってきた。幼保小のパートナーシップを進め、多様な学生を受け入れることを目指し、令和7年度から小学校専修免許課程を設置する計画を立て課程認定申請を行ったところである。研究科の基礎となる学部である子ども未来学部と有機的に協働し6つの基準項目において文部科学省のガイドラインの観点を満たしている。

IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

令和4年度の活動

- ◆教職課程委員会「令和5年度の事業計画」の提出（2月）

令和4年度教職課程自己点検評価に基づいた事業計画（令和5年度）の策定

- ◆教職課程委員会：第12回会議（2023年3月）

令和5年度以降の教職課程の自己点検評価のサイクル等について検討

- ◆大学HPにおいて「令和4年度教職課程自己点検評価報告書」を公表（3月）

令和5年度の活動

- ◆教職課程委員会：第1回・第2回・第3回会議（2023年4月、5月、6月）

他大学の自己点検評価報告書の収集と確認

教職課程の情報公開HP掲載事項の更新と公表

- ◆教職課程委員会：第4回・第5回会議（2023年7月、8月）

全国私立大学教職課程協会「教職課程自己点検評価報告書」作成の手引き（令和5年度版）の確認

- ◆教職課程委員会：第6回・第7回会議（2023年9月、10月）

令和5年度の教職課程の自己点検評価の実施時期について再検討

- ◆教職課程委員会：第12回会議（2024年3月）

前年度の教職課程の自己点検評価報告書を踏まえた改善の方向性・課題について、学部学科に教職課程の自己点検評価を依頼

令和6年度の活動

- ◆教職課程委員会：第1回（2024年4月）

学部学科から単年度評価書ならびに教職課程自己点検評価における課題への対応についての所見の提出

- ◆教職課程委員会：第2回（2024年5月）

「令和5年度教職課程自己点検評価報告書（5月案）」の確認

- ◆教職課程委員会：第3回（2024年6月）

「令和 5 年度教職課程自己点検評価報告書（6 月案）」の確認

◆自己点検・評価委員会（2024 年 6 月）

教職課程委員会より「令和 5 年度教職課程自己点検評価報告書案（6 月案）」につ

いて報告・所見送付を依頼

◆教職課程委員会：第 4 回会議（2024 年 7 月）

「令和 5 年度教職課程自己点検評価報告書」案（最終版）を作成、学長に報告

◆大学 HP において「令和 5 年度教職課程自己点検評価報告書」を公表（7 月）

V 現況基礎データ一覧

令和5年5月1日現在

法人名 学校法人 調布学園					
大学・学部名 田園調布学園大学 人間福祉学部、子ども未来学部、大学院人間学研究科					
学科・コース名（必要な場合） 共生社会学科、子ども未来学科、子ども人間学専攻					
1 卒業生数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業生数				151名 (うち3名大学院)	
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)				122名 (うち2名大学院)	
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)				99名	
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)				24名	
④のうち、正規採用者数				18名	
④のうち、臨時的任用者数				6名	
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 ()
教員数	25名 (うち5名 大学院)	18名 (うち1名 大学院)	2名	4名	
相談員・支援員など専門職員数 3名 (学生相談室)					